業務資料No.781

日本語学校日本語指導要綱

昭和62年5月

国際協力事業団

000
245
LIBRARY

移海事
JR
87－12

国際協力事業団

受入月日	'87.10.15	000
登録No.	16862	24.5
		EME

ま　え　が　き

日本人が移住した北米，中南米の国々には数多くの日本語学校が開設され，多数の日系子弟が就学している。

これらの移住先国における日本語教育は，それぞれの国あるいは地域の日系社会の状態に応じ教科書も指導内容等も異ったものであり指導基準も確立されていなかったが，こと数年，日系社会相互間の交流が進むにつれて改善について共通意識が生まれつつある。

当事業団移住事業部では昭和４７年より日系社会を形成している中南米諸国へ日本語指導教師を派遣しており，これらの教師が中心となって日本語教育指導の基準・方法と教材の開発研究等が進められている。

本資料は、昨年 11 月中南米各地に派遣されている日本語指導教師６名がアスンシオンに集まり，海外の日系子弟に対する日本語教育の指導基準の一例を示すことを目的として作成されたものである。

現在，日本語教育の現場が抱えている問題は多々あるが，とりわけ，教師の養成・確保，教材の開発，指導方法の確立の３点の解決が急務とされている。

昨年，サンパウロ日本語普及センターが中心となって入門編（「一，二，三，にほんごで話しましょう」，「動詞中心のひらがな絵カード」）が作成されすでに初級用教材として使用され始めているが，今後更に本要綱によって明確化された基準に沿って教材が開発され，より実態に則した指導方法が確立されることを期待したい。

おわりに，この「日本語学校日本語指導要綱」の作成にご尽力いただいた派遣指導教師の方々に深謝するとともに，本資料が移住者子弟の日本語教育の振興に活用願えれば幸いである。

昭和６２年５月

移住事業部長

JICA LIBRARY
1040116[4]

目　　次

初級　会話指導・前期 …… 2
初級　会話指導・後期 …… 3
初級　文字指導・前期 …… 4
初級　文字指導　後期 …… 5
中級　前　期　(1) …… 6
中級　前　期　(2) …… 7
中級　後　期　(1) …… 8
中級　後　期　(2) …… 9
上級　前　期 …… 10
上級　後　期 …… 11

初　級

会話指導・前期（テキスト「一，二，三，にほんごではなしましょう」）

目　標

1. 環境内の生活会話を理解し，楽しい表現活動を通して日本語に親しむ態度を養う。
2. 経験したこと，身近なことに関することばをおぼえ，発音に気をつける。

内　容

A　理　解

1. 人の話を聞きとり，その大体を理解できるようにする。
2. 人の話を注意して聞き，簡単な指示に従って行動できる態度を養う。
3. 先生の話す童話や紙芝居などを友達と一緒に進んで聞き，理解できるようにする。
4. 示された事物や絵をみて，簡単な答えがいえるようにする。
5. 敬体と常体表現について習得する。

B　表　現

1. おぼえたことばを使いながら，簡単な話ができるようにする。
2. 簡単なあいさつや，返事ができるようにする。
3. 発音に気をつけて歌ったり，歌や曲をからだの動きで表現できるようにする。
4. 指示されたことをからだの動きを通して表現できるようにする。

「言語事項」

1. はっきりした発音をするために，口形や舌の位置に注意すること。
2. 幼児語を使わないように気をつけること。
3. 身のまわりのことば（行動に必要な名詞や動詞，簡単な形容詞など）をおぼえること。
4. 助詞の「は」「へ」「を」の使い方に注意すること。
5. 会話の中の指示語（こそあどことば）に注意すること。

留意事項

1. この入門期に該当する年齢は，学齢前後と考えられるので，発音の上では，ラ，リ，ル，レ，ロ，がなまらないよう注意させる。
2. シ，ス，テ，ツ，ト，などの発音に注意させる。

初　級

会話指導・後期（テキスト「一，二，三，にほんごではなしましょう」）

目　標

1. 環境内の生活会話を理解し，楽しい表現活動を通して日本語を話そうとする態度を養う。
2. おぼえたことばを使い，簡単なあいさつや，お話などの会話ができるようにする。

内　容

A　理　解

1. 先生や友達の話を関心をもって聞き，すすんで話の中にとけこもうとする態度を養う。
2. 絵本・紙芝居・録音（テープレコーダー等）等を楽しんで見たり聞いたりして，その内容やあら筋を理解できるようにする。
3. 敬体の表現に親しむ。

B　表　現

1. おぼえたことばを使い，簡単な情景の説明や，お話ができるようにする。
2. 日常の会話の文型になれ，簡単なうけ答えができるようにする。
3. 短いメロディに自分の感じたことをことばにして歌うことができるようにする。
4. 感じたこと，考えたことをからだを通して表現することができるようにする。

「言語事項」

1. はっきりした発音をするために口形，声量，姿勢等に注意すること。
2. 助詞の「は」，「へ」，「を」……，ことばのつかいかたに慣れること。
3. 指示語（こそあどことば）に慣れ，会話の中で使い分けることができること。
   動詞，形容詞等の活用のあることに気づくこと。
4. おぼえた単語をつなげ，基本的な文型を作り主語と述語の関係の照応した文型に注意すること。

留意事項

1. 長音，だく音やびだく音にも注意させる。
2. 入門期の指導は，読み，書きよりも，話す，聞くの分野に力点をおき，歌，遊戯，絵など体の動きや遊びを通して体でおぼえさせる。

初　　級

文字指導・前期（テキスト「動詞中心のひらがな絵カード」）

目　標

1. 経験したこと，身近なこと，に関する単語を発音に気をつけながら，音と文字を結びつける。

内　容

A　理　解

1. 示された事物や絵などと文字との関連を定着させていくように指導する。

B　表　現

1. はっきりした発音で平かな清音４６文字をよみ，その大体を書けるようにする。

「言語事項」

1. 平かな清音４６文字を正しく読むこと。
2. 正しい鉛筆の持ち方を体得し，正しい姿勢で筆順に従っていねいに書くこと。

留意事項

1. 形の似ている文字の指導に注意させる。
   （例：の，め，ぬ，わ，ね，し，く，つ　等）
2. 文字の大きさに注意させる。
3. 入門期には特に鉛筆の持ち方，姿勢，ノートの置き方等に注意するとともに，鉛筆を無理なく自然に運ぶ練習をくり返しさせた後，文字指導に入るようにさせる。
4. 入門期における筆順指導は十分な指導を心がけ，一字一字ていねいに書く態度を育てさせる。

初　級

文字指導・後期（テキスト「動詞中心のひらがな絵カード」）

目　標

1. 経験したこと，身近なこと，に関する単語をおぼえ，平がな（長音，そく音，よう音，はつ音，だく音，半だく音）を正しく発音し，書けるようにする。

内　容

A　理　解

1. 示された事物や絵などを見て，文字との関係を正しく理解できるようにする。
2. 平かなで書かれた短い文を読んで理解できるようにする。

B　表　現

1. はっきりした発音で，平かな（長音，そく音，よう音，はつ音，だく音，半だく音）を読め，かつ正しく書けるようにする。

「言語事項」

1. 身近な事柄に関することばを学習者が自分で適切に使えるように指導すること。
2. 平かなを文字の形や筆順に従って，ていねいに正しい姿勢で書く習慣をつけること。

留意事項

1. 平かなの書き方は，筆順，形，大きさ，止め，はね，払い等にも十分注意させる。
2. 鉛筆の持ち方，ノートの置き方，姿勢等に注意し，誤っているものについては，この時期までに確実に矯正させる。
3. 長音，そく音，よう音，はつ音，だく音，半だく音については，それぞれ発音に注意させ，くり返して発音させることが大切であり，また発音と表記の関係も明確にさせる。

中　級

前　期 (1)

目　標

1. 事柄の順序や場面の移り変りを中心として，内容を理解しながら文章を読んだり，話を聞いたりすることができるようにする。
2. 事柄の順序をたどりながら，話をしたり，簡単な文章を書いたりできるようにする。

内　容

A　理　解

1. 話の内容の大体を正しく聞きとる。
2. ていねいな言葉の使い分けができるようにする。
3. はっきりした発音で音読する。
4. 文章の内容の大体を理解する。

B　表　現

1. はっきりした発音で順序をおって話す。
2. 正しく視写したり，聴写したりする。
3. 語と語を続けて簡単な文を作ることができるとともに，表現するために必要な文字や語句を増やす。

「言語事項」

1. 片仮名の大体を読み，また書くとともに，片仮名で書く語に注意すること。
2. やさしい漢字のなりたちについて興味を持つようにすること。
3. 句読点の打ち方や，かぎ(「　」)の使い方に注意すること。
4. 主語と述語との照応に注意して読み，または書くこと。

留意事項

1. 文字を正しく，ていねいに書かせる。
2. 表現したり，理解したりするために，必要な語句をふやさせる。
3. 長音，そく音，よう音，はつ音などの表記ができ，また，助詞の「は」，「へ」，「を」などを正しく使えるようにさせる。
4. 敬体の言葉と，常体の言葉のあることに注意して話させる。

中　級

前　期 (2)

目　標

1. 事柄の順序や場面の移り変りを中心として，大体を理解しながら文章を読んだり，話を聞いたりすることができるようにするとともに，易しい読み物に興味をもつ。
2. 事柄の順序をたどりながら話をしたり，簡単な文章を書いたりすることができるようにするとともに，進んで表現しようとする態度を育てる。

内　容

A　理　解

1. 時間的な順序，場面の移り変り，事柄の順序などを考えながら，話を聞いたり，文章を読んだりする。
2. 文章の内容を考えながら，はっきりした発音で音読する。
3. 文章の叙述に即して大体の内容を読みとろうとする。

B　表　現

1. 題材について必要な事柄を選ぶ。
2. 発音に注意して順序よく話す。
3. 敬体のことばと常体のことばの使い分けができる。
4. 正しく視写したり，聴写したりする。
5. 事柄の順序をたどりながら書いたり，話したりする。

「言語事項」

1. 漢字の成り立ちについて関心を持つこと。
2. 句読点の役割を理解し，文の必要な箇所に用いて文章を書くこと。
3. かぎ(「　」)を適切に使うとともに，その他の主な符号についてもその使い方を理解すること。
4. 主語と述語との関係及び，修飾語と被修飾語との関係をはっきりさせて読み，話し，または書くこと。
5. 文や文章の中における指示語や接続語の役割と使い方に注意すること。

留意事項

1. 文字をていねいに正しく書かせる（姿勢，筆順，形，大きさ，つり合いなどに注意させる。）
2. 表現したり，理解したりするための必要な語句をふやさせる。
3. 長音，そく音，よう音，はつ音の表記ができ，助詞「は」，「へ」，「を」などを文の中で正しく使わせる。

中　級

後　期 (1)

目　標

1. 内容の要点を考えながら，話を聞いたり，文章を読んだりすることができるようにするとともに，易しい読みものを進んで読もうとする意欲を高める。
2. 文章や話の要点がわかるように，事柄ごとにまとまりのある話をしたり，簡単な構成の文章を書くことができるように意識するとともに，わかり易く表現しようとする態度を育てる。

内　容

A　理　解

1. 話の内容を正確に聞きとる。
2. 文章の内容が表わされるよう工夫して音読する。
3. 語句の意味を文脈にそって考える。
4. 文章や話の要点を理解する。

B　表　現

1. 筋道をはっきりさせ，話の要点も考えて話す。
2. 正しく視写したり，聴写したりする。
3. 書いたり，話したりする必要のある事柄を選び，それらを整理して，話したり，書いたりする。
4. 語と語の続き方に注意して文を整え，文と文の続き方を考えて文章を書く。
5. 書く事柄の区切りや中心を考えて書く。
6. 文章や話の内容について，簡単な感想や意見をもつ。

「言語事項」

1. 発音のなまりやくせを直すようにして話すこと。
2. 文や文章の中での片仮名の適切な使い方に慣れること。
3. 簡単な漢字の構成について理解を深め，その特質をつかむこと。
4. 仮名遣いや送り仮名に注意し，形容詞や動詞の変化にも気づくこと。
5. 主語と述語の関係及び修飾語と被修飾語の関係をはっきりさせて文章を話し，読み，また書くこと。
6. 指示語，接続語の役割を理解すること。

留意事項

1. 文字の形を整えて正しく書くようにさせる。
2. 難しい語句について，辞書を利用して，調べる方法を理解するようにさせる。
3. 句読点の役割を理解し，文の必要な箇所に用いて文章を書くようにさせる。
4. 指示語，接続語の役割を理解するようにさせる。

中　級

後　期 (2)

目　標

1. 話の要点を正しく理解しながら聞いたり，叙述に即して正確に文章を読んだりすることができるようにする。また，進んでいろいろな読み物を読もうとする態度を身につけさせる。
2. 表現する内容の中心点がはっきり分かるように，段落を考えて，文章を組み立てて書いたり，意味のまとまりごとの区切り，文と文の接続の関係に注意し，整理しながら表現しようとする態度を育てる。

内　容

A　理　解

1. 話の内容を正確に聞きとること。
2. 事柄の意味，場面の様子，人物の気持などが聞き手によく伝わるように音読する。
3. 語句の意味を文脈にそって理解する。
4. 文章を段落ごとに整理しながら読み，それぞれの段落相互の関係について考える。
5. 表現されている内容をよく読みとる。

B　表　現

1. 筋道をはっきりさせて話す。
2. 段落を考えて書き，また，段落と段落との続き方にも注意して書く。
3. 内容の中心点がよく分かるような話し方や，書こうとすることの中心点が明確になるような書き方をする。
4. 自分の感想や意見をはっきりさせたり，まとめてから，文章に書き表わす。

「言語事項」

1. 役割について理解し，読み書きできる漢字をふやすようにすること。
2. 送り仮名に注意して書き，動詞などの語形変化についての意識をもつようにすること。
3. 語句の組みたてを理解し，必要な語句の量を増すこと。
4. 表現したり，理解するために必要な文字や語句について，辞書を利用して調べる方法を理解し，進んで調べようとすること。
5. 句読点を適切に打ち，また段落のはじめ，会話の部分など必要な個所は行を改めて書くこと。
6. 文と文の接続の関係，文章における段落相互の関係を理解することにより，初歩的文章構成についての知識をもつこと。
7. 文と文との意味のつながりを考えながら，指示語や接続語の使い方に注意すること。
8. 共通語と方言のあることを理解すること。

留意事項

1. なまりや癖のない正しい発音で話させる。
2. 目的に応じた適切な音量や速さで話させる。
3. 文字の大きさや配列に注意して読みやすく書かせる。
4. 外来語等，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で適切に使わせる。

上　級

前　期

目　標

1. 主題や要旨を理解しながら，話を聞いたり，文章を読んだりすることができるようにするとともに，読書の範囲を拡げる。
2. 主題や要旨のはっきりした表現をするため，段落毎の構成や段落相互の関係を考えて，筋道をたてて話をしたりすることができるようにするとともに，自分の考えを明確に表現しようとする態度を育てる。

内　容

A　理　解

1. 語句の意味を文脈に沿って正しく理解する。
2. 書き手のものの見方，考え方，感じ方などについて考えながら読む。
3. 話の内容を正確に聞きとり，話し手の考え方を理解する。
4. 人物の気持や場面の情景が描かれている箇所について味わって読む。

B　表　現

1. 目的や意図に応じて的確に話す。
2. 段落のはっきりした文章を書き，また段落と段落の関係が理解しやすい文章を書く。
3. 筋道がはっきりしている話し方をしたり，主題や要旨の明確な文章を書いたりする。
4. 事象と感想・意見などを区別して文章を書き表わそうとする。
5. 自分の書いた文章を読み返して，叙述の仕方について一層工夫するようにする。

「言語事項」

1. 漢字の役割を理解し，進んで活用すること。
2. 辞書のいろいろな使い方を知り，利用することができるようにすること。
3. 送り仮名，仮名遣いに注意して正しく書き表わすとともに，語型変化のきまりを理解すること。
4. 句読点の打ち方，改行の仕方などを適切にして文章を書くこと。
5. 文と文との意味のつながりを考えながら，指示語や接続語を適切に使うこと。
6. 文と文との接続関係や文章における段落相互の関係に対する理解を深め，構成を考えて文章を書くこと。
7. 敬体と常体とを使い分けて文章を書き，日常よく使われる敬語を適切に使うよう意識すること。
8. 共通語と方言では，違いがあることを理解し，適切な使い方を知ること。

留意事項

1. 正しい発音で話させる。
2. 言葉の抑揚，強弱などに注意して話させる。
3. 文字の形，大きさ，配列などを考えて，文字を正しく整えて書くようにさせる。

上　級

後　期

目　標

1. 正確に話を聞いたり，文章の種類，形態などの拡がりをもった適切な読み物を読む習慣をつける。
2. 目的や内容にふさわしい話をしたり，文章を書いたりすることができるようにするとともに，相手や場面の状況を考えて，表現しようとする態度を育てる。

内　容

A　理　解

1. 話の内容を正確に聞きとり，話し手の考えを理解する。
2. 描写や叙述の優れている箇所を読み味わう。
3. 目的に応じて，適切な本を選んだり，効果的な読み方を工夫したりする。
4. 文章の内容と，自分の生活や意見と比べながら読む。

B　表　現

1. 目的や意図に応じて的確に話す。
2. 根拠を明らかにし，それに基づいて自分の意見や主張を述べる。
3. 文章全体の構成を考え，目的に応じて文章を簡単にしたり，詳しく書いたりする。
4. 自分の書いた文章を読み返して，一層効果的な叙述の仕方について工夫する。
5. 多様な文章を書くことによって，自分の考えを深める。

「言語事項」

1. 仮名及び漢字の役割などについて理解を深め，知っている漢字を文の中で適切に使うこと。
2. 語の構成，変化などについて理解を深めること。
3. 表現したり理解したりするために必要な語句について，辞書や事典を利用する習慣をつけること。
4. 文や文章の構成について理解を深めること。
5. 日常よく使われる敬語の使い方に慣れ，文章の目的に応じて敬体と常体を使いわけること。
6. 語感・言葉の使い方に対する感覚などについて関心を深めること。

留意事項

1. 正しい発音で話し，必要な場合には共通語で話させる。
2. 送り仮名及び漢字の役割などについて理解を深め，知っている漢字を文の中で適切に使うようにさせる。
3. 文字の形，大きさ，配列などにも注意して書くようにさせる。